

日本語漢字教育における認知科学的アプローチの導入と実践

講演者: 徳弘康代先生(名古屋大学留学生センター)

要旨: 英語の第二言語習得を範として発展してきた日本語教育において、文字語彙の教育、特に漢字教育は、英語教育にならうものがない分野であり、英語教育にはない問題を抱えている。現在も、漢字教育の研究と実践は試行錯誤の中で発展途上にあるといえる。日本語教育の現場では、膨大な量の漢字の教育を実践する時、国語教育の方法が取り入れられることも多いが、日本語における漢字教育は、漢字の読み書きの教育だけでなく、語彙教育の側面も大きく、語彙の習得と文字の習得を同時に行うという負担を学習者に強いることになっている。ここでは、このような日本語教育の漢字教育に、新たな視点を導入することを目的とし、認知科学的なアプローチを取り入れ、人の認知処理のメカニズムに関する研究からアイデアを得て、それを教育実践につなげていく試みについて紹介する。

日時: 2011年11月16日(水) 18:15 - 19:45 (6コマ目の授業時間)

場所: 名古屋大学全学教育棟・北棟405号室

問い合わせ: 玉岡賀津雄 (ktamaoka@lang.nagoya-u.ac.jp)

事前予約不要・参加費無料